

みんなでふるさとの山「花立山」をPRしよう 「冬季ジュニアリーダー研修会」を開催しました



令和元年12月1日、小郡市千潟の花立山において、「冬季ジュニアリーダー研修会」を開催しました。

参加者は市内の小学4～6年生26人。研修では、子どもたちに里山の良さを知り、郷土に愛着を持ってもらうことを目的に、「花立山PR大作戦」と題し、花立山を散策し、観光用のPR看板づくりに取り組みました。

午前中は花立山の登山ルートを講師から山の歴史や自然について話を聞きながら歩き、山の良い点や改善点を見つける作業を行いました。

その後、総合福祉センターあすてらすに移動して、午前中の散策で各々が気づき感じたことをもとに、看板をデザインしました。

発表では子どもたちから「花立山に登って楽しかったので、みんなに知って欲しい」「山登りが楽しめ

るように登山口にクイズを置いて、山頂に答えを置いたらどうか」「ごみが気になった」など様々な意見があがり、行先案内板や山に関するクイズ、ゴミの投げ捨て禁止や外国人向けに英語の看板など、アイデアあふれる作品が披露されました。また、散策コースをいくつも考えたり、花立山のイメージキャラクターを作る子もいて、花立山の自然体験が子どもたちの想像力をかきたて、故郷の山に愛着を感じさせたようでした。

この日作られたデザインは、地元の「花立山を楽しむ会」により看板にされて、3月15日に花立山に設置される予定です。

自分たちの目で見て触れて、学び、考え、表現する。市民会議は、子どもたちの成長に欠かせないこうした体験の場を提供することで、未来を担う小郡市の青少年健全育成を支援しています。



▲講師の説明を聞きながら花立山を散策



▲班に分かれてアイデアを話し合う



▲皆の前で作成した看板について説明

令和元年度 校区実践発表会

御原校区協働のまちづくり協議会「あの時の事故を忘れない」



2月1日、生涯学習センター七夕ホールにおいて、「令和元年度 校区実践発表会」が開催され、会場を埋めつくす200人を超える参加者で、熱気あふれる発表会となりました。

毎年行われている「校区実践発表会」は、青少年育成事業を行う市内8校区から1校区に活動内容を発表してもらうもので、それぞれの地域の特色ある活動を知る貴重な場になっています。

今年度の発表は、御原校区協働のまちづくり協議会の宝満川の遊泳禁止啓発看板の設置事業報告で、演題は「あの時の事故を忘れない」。

昨年5月、宝満川において遊んでいた児童が溺れて亡くなる事故が発生しました。御原校区ではそのような痛ましい事故を二度と起こさないと、7月、遊泳禁止啓発看板の設置に向けた取り組みを始めました。

本事業では、御原校区まち協と市議会議員、遺族が協力し、看板の設置場所の選定や河川管理者の許可申請、看板のデザイン決めや寄附金を募るなど、

多くの行程を経て、今年2月に宝満川沿い4カ所の啓発看板設置が実現しました。

発表では亡くなった児童の遺族より、「この事故を身近に経験した子どもは、自分の子や孫に川の危険性を伝えると思うが、将来この事故が忘れられた時、また子どもたちが川を遊び場にするかもしれない。その時この看板を見て事故を思い出し、川で遊んだら危ないと再認識してもらうことが目的です。」と語られました。また、「このような事故で、大切な人を失う悲しみを他に味わって欲しくない。安全で安心して暮らせるまち小郡となるよう、皆が協働して自分たちの地域は自分たちで作るという思いのもと、まちづくりを進めましょう」との呼びかけがありました。

子どもたちを事故から守るため御原校区の地域一体となった取り組みと、深い悲しみの中にもあながらも遺族の勇気ある真摯な呼びかけに、会場からは、惜しめない拍手が送られました。



▲啓発看板



▲宝満川沿いの看板の設置場所4カ所

講演報告「地域で子育てを」 講師 大分県佐伯市鷹鳥屋神社宮司 矢野大和さん



▲講師 矢野大和さん

校区実践発表会では御原校区の発表に続き、矢野大和さんの講演があり、落語が得意な矢野さんの軽妙な語り口に笑いが起きる中、大人が子どもに与えるべき生きる力とは何かについて学びました。

講演では、矢野さんの地元集落の通学路で小学生が高齢者から伝統芸能やコミュニケーションを学び、高齢者は子どもの役に立つことで生き生きと過ごす様子が紹介されました。

高齢化問題は、高齢者が増えたからではなく子どもが減ったことが問題で、子どもを増やすためには安心して子育てできる地域づくりが大切。皆が得意分野を生かして、人がつながる地域をつくろうとのことでした。